

〔第36回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

**エイジングファーム育成動物を
最大限に生かす基礎老化研究を目指して**

実験動物管理室

小木曽 昇 室長

2019年1月8日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

近年、老化疾患の発症や老化に伴う機能低下の抑制に関する研究が加速するにつれて、日本チャールス・リバー社が2016年6月にB6J Agedマウスを販売開始した。また、2017年にはAMEDによる老化メカニズムの解明に向けたプロジェクトが立ち上がり、さらに老化・寿命制御研究が速やかに進みつつある。その基礎老化研究の自然老化マウスは重要な研究材料となる。実験動物管理室では、エイジングファーム (AF) 育成動物を多数飼育し、NCGG内に向けて随時供給を行っている。これらの長期的に飼育された加齢動物を研究に用いる場合、系統の特性だけではなく個体導入時のロット間のバラつき、飼育環境の違いを考慮に入れる必要があり、これまでそれらの個体へ及ぼす様々な影響について報告してきた。現在我々はAF育成動物の自然老化モデル動物としての評価を行うため、生理学、行動学、病理・形態学、血液学、微生物学的解析を多面的に行っており、系統特性を含め個体レベルでの有用な老化マーカーの探索や、マウスの社会性を考慮した適正な飼育環境を策定するための検討（老齢動物飼育管理の標準化）を行っている。

本会では、老齢マウスの最新情報を含め、これまでに蓄積されたAF動物の系統特性を含めた基礎データの進捗状況について紹介したい。

座長：細山徹

連絡先：副所長室(内線5002)